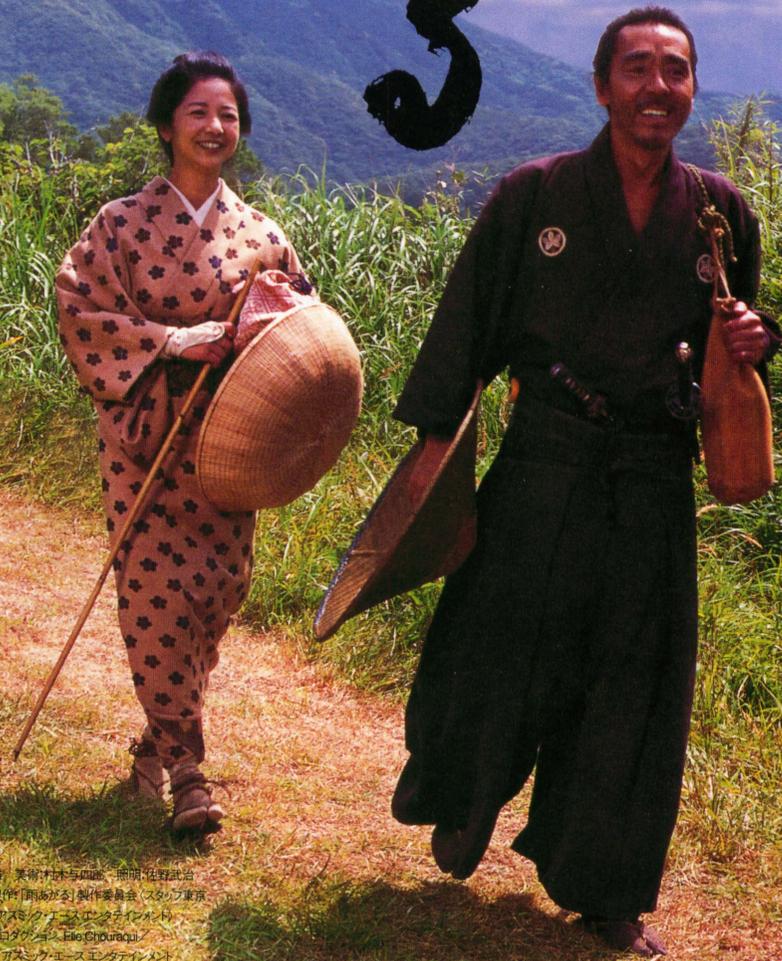




武芸の達人だが仕官がかなわない浪人、  
三沢伊兵衛と、その妻たよ  
この映画は主人公とその妻の物語である

# 雨あがる

監督 小泉堯史 脚本 黒澤明 原作 山本周五郎  
寺尾聰 宮崎美子 三船史郎 原田美枝子 仲代達矢  
吉岡秀隆 檀ふみ 井川比佐志 加藤隆之 松村達雄

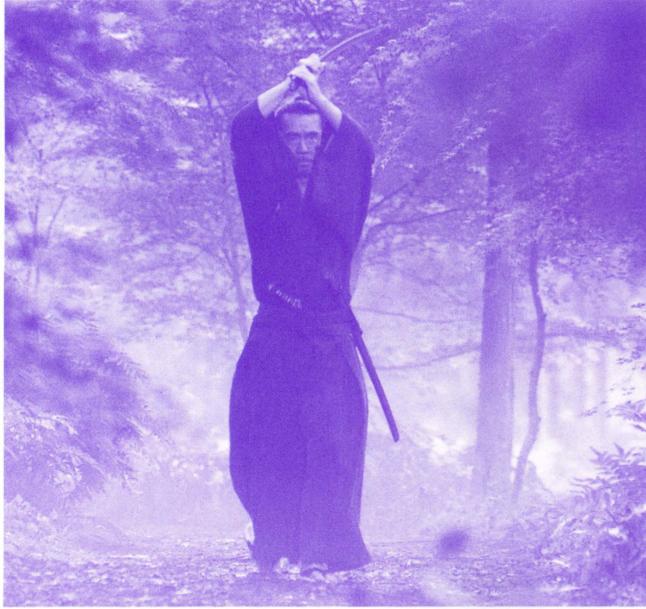


プロデューサー 藤正人 黒澤明 撮影 上田正治 撮影協力 高橋孝雄 美術 津村与由 照明 佐野武治  
録音 紅谷博一 衣裳 黒澤和子 音楽 佐藤博 監査補 野上順代 製作「雨あがる」製作委員会 (スタッフ 東京  
イマンカ 博報堂 住友商事 日本カルシウムV.M. 丸花製粉 菊川園芸 アスミック エス エンタテインメント)  
製作プロダクション アスミック エス エンタテインメント 製作協力 黒澤プロダクション Eizo Chouga  
7 Films Cinema / 特別協賛 東京海上火災保険会社 日本支店 / 配給 東宝 アスミック エス エンタテインメント



## “未来を担う映画” 緑の獅子賞受賞

本作はコンペティション部門の出品ではないが“未来を担う映画”緑の獅子賞を受賞した。この緑の獅子賞は最もエコロジカルな作品に与えられる賞で、“人間と自然の関係を最も正しく取り上げた作品”“環境と人間の関係をはっきりと表した”作品と評価されて受賞となった。

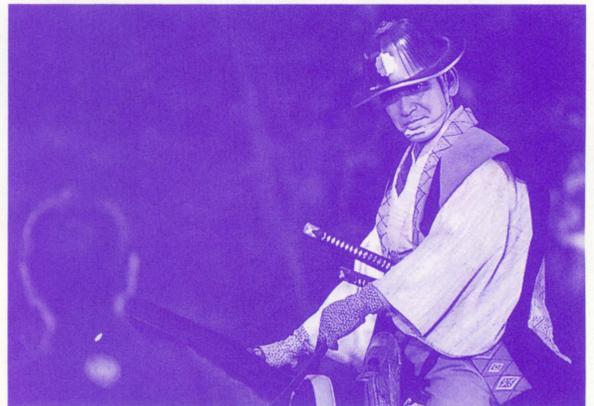


◆黒澤組結集、ゆかりのキャスト総出演  
主役の三沢伊兵衛には「乱」『夢』『まあだだよ』に主演した寺尾聰が扮し、劍豪ながら心根の優しい浪人を好演。妻のたよには「乱」の宮崎美子が、夫を優しく支える武家の妻を爽やかに演じている。永井和泉守重明には28年ぶりに映画出演となる三船史郎。そのほか、黒澤映画ゆかりの仲代達矢、松村達雄、原田美枝子、井川比佐志、吉岡秀隆などが脇を固め、小姓役に黒澤明の愛孫である加藤隆之が映画デビューするのも話題である。スタッフは黒澤明が長年信頼してきた「黒澤組」が結集。撮影に上田正治、撮影協力に斎藤孝雄、美術に村木与四郎、照明に佐野武治、録音に紅谷恒一、衣裳に黒澤和子、音楽に佐藤勝、監督補に野上照代とまさに一騎当千の盤石な構えで、堅固な技が披露されている。製作は「乱」を手掛けた原正人と黒澤久雄が担当。黒澤明ゆかりのスタッフ、キャストの熱い想いが黒澤明の果たせなかつた企画を今、現実にする。



◆黒澤明遺稿脚本を映画化、小泉堯史第1回監督作品  
1998年9月6日、世界の巨匠黒澤明の死は世界中のマスコミが報道多くの映画ファンに惜しまれた。その黒澤明が最後まで映画化を目指した企画が「雨あがる」。黒澤監督による山本周五郎作品の映画化には「椿三十郎」「赤ひげ」「どですかでん」があるが、同名短編小説を脚色したのが「雨あがる」だ。この脚本を28年間助監督として師事した小泉堯史が完成、初監督に挑戦。黒澤組スタッフとゆかりのキャストが結集。監督デビューを支えている。99年ヴェネチア映画祭では黒澤明一周忌を追悼し特別上映され会場を埋めつくした観客は総立ちで大喝采を送り本作を讃えた。

◆山本周五郎原作の優しさを見事に表現した感動作  
黒澤明自身覚書に次のことを記している。戦国時代が終わった反動で豪奢な元禄時代があり、その奢侈に飽き質実尚武を尊ぶ享保の時代が舞台。夫婦の話である。そして、見終わって晴れ晴れとした気持ちになること。妻は、仕官できなくても良い、人を押しつけず真実な人々に希望を与える夫が立派だと考えている。本作を貫いているのは、山本周五郎が書き、黒澤明が脚色し、「黒澤組」の結果の下に小泉堯史が表現した「優しさ」である。本作は見事に小泉堯史監督作として完成した。



### ◆『見終わって、晴れ晴れとした気持ちになること』

武芸の達人だが仕官がかなわない武士三沢伊兵衛とその妻たよ。折からの豪雨が旅の途にある夫婦を宿場町に足止めさせる。二人が泊まる安宿には雨が上がるとの噂々と待つ人々が大勢いた。そんな彼らの心を和ませようと伊兵衛は禁じられている賭試合で金を都合し酒や食べ物を振る舞う。人々に笑顔が戻った時、雨もようやく上がった。やっと外に出られた伊兵衛は偶然若侍同士の果たし合いに遭遇、懸命に仲裁するのだった。その一部始終をこの藩の城主である永井和泉守重明が見ており、伊兵衛に藩の剣術指南番の話が起る。

正月第二弾 東宝洋画系ロードショー!

特別鑑賞券絶賛発売中! ●一般 1,600円

有楽町・東宝映画街

日比谷みゆき座

03(3591)5357